

2022年3月30日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
ALPS プログラム第7回シンポジウム
アカデミックリンク・リンク開設10周年記念シンポジウム
「ポストコロナの時代における高等教育とそれを支える教育・学習支援」

参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 206 名 アンケート提出数： 54 件

本シンポジウムについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・ 特にありませんでした
- ・ 途中参加できない時間があり全部聞けませんでした。オンラインも対面それぞれの良い点があることを理解しました。
- ・ 実際の学習支援の現場で起きたこと、起きていることが知れてよかった。また、アカデミック・リンク・センター設立の経緯についても知らなかったの、勉強になりました。
- ・ オンラインでも対面でも、手法はともあれ、基本は如何に信頼関係を構築するか、ということ、再認識しました。
- ・ 対面・オンラインの両義性の示唆を得た
- ・ 実感してきたことを整理していただき、「つながり」を創ることについてやってきましたが、よかったんだなと思えました。
- ・ 国立大学や私立大学、大規模な大学、小規模な大学に関わらず、このコロナ禍でどの教職員も試行錯誤しながら取り組んできているのがよく分かりました。オンライン授業は「処方薬」だったが、今はそれがスタンダードになってきていること、対面だから必ずしも「良い」わけではない、という言には気づかされました。
- ・ 千葉大学アカデミック・リンク・センターの活動がわかりました。基調講演が面白かった。
- ・ オンラインで授業、支援ができることがコロナで判明したのに、あえて大学が対面を選ぶのはなぜだろうと少し疑問だったのですが、各先生方からの実体験としての対面で接することへの重要性を学ぶことができました。特に、信頼関係の構築に関する対面の有効性はなるほどと図書館職員としても実感することがありました。
- ・ 教育・授業におけるオンラインと対面のそれぞれのメリットを生かす取り組み。
- ・ これからの学修支援の在り方について改めて考えるよい機会になりました。コロナ禍を経て図書館からの情報発信、様々なサポートを丁寧に行う必要性を感じました。
- ・ 社会へのコロナの影響が2年を超え、その中で大学教育における場の必要性の再確認、デジタル化とどのようにつきあっていくかという方向性について理解しました。
- ・ 人格的交流の位置づけを改めて考えた
- ・ 学習、学習支援にとって「信頼」というキーワードが、これまでも、これからも重要であることが、コロナ禍で明確になった、と理解できたことが重要でした。
- ・ 基調講演において、対面授業の「ライブ感」の話がとてもリアルでした。対面授業ならではの、受講環境（教室）の雰囲気は、授業内容をふりかえるときに一緒に記憶に残ると思います。パネルディスカッションにおいて、学習相談の性質によってオンラインに向いているもの、オフラインに向いているものがある、という話は、確かにそうだと思います。

- ・ アカデミック・リンクは千葉大学が全国に先駆けて開設したものだということ。
- ・ それぞれの学部は教育の共同体、という表現を初めて耳にしましたがとても納得しました。
- ・ 大学授業での対面とオンライン、それぞれの課題がわかりました。学生たちでの信頼関係をいかに築くか、設計しておく必要があります。
- ・ 支援する職員という観点で、ポストコロナの教育・学修支援をどうとらえるか、携わっていくべきかという論点を示していただいたことがとても良かった。ポストコロナはこういう風潮になるといった概論、教員はどう対応するかという内容は散見されるが、職員という視点はあまりないように思う。オンラインをはじめとした、コロナで示された様々な対応は、今後は選択肢のひとつとして、「より適切な支援」のあり方を常に問うて実践していく姿勢が重要と理解した。
- ・ 授業形態として対面、オンライン、ハイブリッドそれぞれのメリットやデメリットが健在化し、かつこれからの教育として選択する時期にある今、単なるツールや形態としての便利・不便だけではなく、学生の間関係構築や人材育成の面での課題や考えるべきことについてのお話を伺えたことが勉強になりました。
- ・ 学修支援のデザインについて、綿密な計画が必要と再認識した。
- ・ コロナ禍での学生支援の課題は大差なく感じたが、自学の教員と今回のようなテーマを議論する機会がないことが、課題であることが認識できた。
- ・ ポストコロナというと、現場の担当者レベルでは、オンラインをどう軌道に乗せるかといった逐次的なことに注目しがちですが、そもそも対面とオンラインとの違いや、本来のニーズ（どのような学生の創造をめざすのか）を考え、必要なことをしていかなければいけない、ということが分かりました。本当に複雑で難しい話です。
- ・ 学習相談の「現実世界の空間」の果たしてきた役割が、コロナ禍で失われてしまったこと、結果的に学習支援の機会が減ってしまったことは残念です。授業ガイダンスなどを対面で行うことで、後の授業では遠隔でもスムーズに進むというお話もあり、初回だけでもカメラ（画面）越しではなく対面相談の必要性を感じました。ただ、継続したWeb相談は家庭教師等の指導なら考えられますが、ふらっと立ち寄ることや、リピーターの存在を考えると難しいと感じました。見せ方など技術的な問題かもしれませんが、「空間」が可視化できるメタバースは、学習者が自分視点で仮想空間を動き回ることができ、ふらっと相談できるスペースとして有効かもしれないと思いました。
- ・ 対面からオンラインに移行したことで見えなくなったサービスをどのように届けるか、「つなげる」活動が重要であることがよくわかりました。
- ・ 10周年を記念する講演を拝聴させていただき、ありがとうございました。貴学の先進的なお取組が全国に普及していることがよく理解できたとともに、昨今頻繁に言われる「リアルとデジタルの融合」について、簡単には正解の見つからない課題かと思いますが、改めて見つめ直す機会となりました。
- ・ 大学の工夫がわかりました
- ・ 自身が業務で携わった範疇でしか貴学の取組を理解しておりませんでした。竹内副学長のご講演を拝聴し、点や線ではなく面として学生・研究者支援をされていること、その一部としてAcademic English Consultationがあることを学べたため、その業務に携わることができたことを改めて嬉しく感じました。
- ・ 岩切先生のご講演の最後のまとめが印象に残りました。20年以上経ていまだに記憶に残る授業がいくつかありますが、授業の内容そのもの以上に教員と学生が作り出した空気感が大きく影響しているように感じ、オンデマンド授業ではそれが得られにくいのはとても残念なことだと思います。オンデマンド授業を前提とした場合、目標の明確化と学修成果の把握がより重要になるとともに、カリキュラム全体の見直しが必要になると感じました。

- ・ 学習支援に必要な職員スキルとしてもあったように学内に散らばっている支援をつなげ調整していくことは本学においても課題の一つであると認識した
- ・ 時と場所を選ばない学びにおいて、学生と教員、学生同士をつなげる部分の支援が大変重要であることが確認できました。また、しかるべき相手に適切な言葉や表現で伝達するという当たり前のスキルを身につけるため、日々、経験値を高めていくことが重要であると感じました。
- ・ オン・オフのどちらについてもサービスも教育も「つなぐ」「つながる」は大事
- ・ コロナ禍でリモートワークやオンライン会議が促進されたということはよく聞きましたが、ALCですでに準備してきたことがコロナ禍のオンライン授業などでも役立ったという点が印象的でした。横田先生の、アクティブラーニングも、オンライン授業・ゼミも、教員は学生時代に経験していないことというのが、「確かに、私自身も学生時代に経験していない」と感じました。(代理店の立場でオンライン製品を取り扱っているため、授業をされる先生、学生の方々のお話をもっとお伺いしてみたいと思いました。)
- ・ デジタル・スカラシップという概念とアカデミック・リンク・センターの取組を初めて知りました。また、10年の経緯を知ることで、先駆的に取り組まれてきたことを理解し、これから先を見据えた検討の参考となりました。
- ・ ラーニングコモンズ(LC)が学修の仕方がわからない学生の心の拠り所となっているということ、コロナ禍においてLCが学生間の交流の場として機能していたこと
- ・ アカデミック・リンクとALPSプログラムの10年間の歩みがわかりやすくまとめられていて、受講生の人数や千葉県以外からかなり遠い地域の方も関心を寄せて受講されていたということがよくわかりました。先進的な事例として高い評価を受けていたということを改めて認識しました。
- ・ 学習形態として、対面とオンライン、それぞれに利点があることを改めて理解できました。また、学修支援においてもそれぞれの良さがあることを理解できました。
- ・ 対面とオンラインの様々な問題点。今後のFD活動の課題など
- ・ 「新しい発見」というよりも、十年間の歩みを振り返って、コンセプトがブレていないことに感銘を受けました。講演のそこかしこに試行錯誤の跡を感じましたし、まっすぐな道ではなかったのだろうと思いますが、10年間、継続してきたことは素晴らしいと思いました。
- ・ コロナ禍でオンラインでの会議やイベントが多くなったが、これをマイナスととらえず、むしろプラスの新しい教育学修支援方法だと改めて分かったと思います。
- ・ アカデミック・リンクの運営が、アカデミックなまなざしとあわせて学生視点で行われており、PDCAが回っている様子が伺えました。特に、コロナ禍であった2020年度、知見を共有すべくシンポジウムを実施して頂いたのはさすがだと思いました。
- ・ 学習支援の、オンラインとオフラインの比較は、単純に判断できないということが理解できました。

2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・ ありません
- ・ ヒューマンケアの実学の学問の場合、対面は避けられない。各教員のコンセンサスを得ることも難しい。コミュニケーションを重ねることが重要なのでしょうか。
- ・ 物事のどのように考えたらいいか、という内容は有意義ではありますが、さらに具体的な取り組みや省察、提言を知りたかったという気持ちもございます。
- ・ 教育・学習支援の多様性。
- ・ 今後の、ハイブリット教育のあるべき姿。
- ・ 学生とどのようにファーストコンタクトするのか。今日の話の大前提として、特にオンライン下では、学生

とファーストコンタクトができないと次に展開しないため。

- ・ 國本先生がパネルでおっしゃっていた「場」での振る舞い方を最初に提示することが重要、というのは本当にそうだと思いますが、その方法、ベストプラクティスみたいなものの研究が必要なのかも、と思いました。
 - ・ ディスカッションの最後は漠然とよくわかりませんでした。
 - ・ パネルディスカッションでも話題になっていたが、「つなげる支援」という点については、もちろん何となく意味は通じるのだが、今一つピンとはこなかった。今後論文等でまとめられるということなので、楽しみにしたい。
 - ・ 「つながり」というキーワードがありましたが、大学の規模や各所管の役割や学生の風土など、さまざまな要素によって異なると思いました。それゆえに一概に言えないところなのだと思うのですが、実感をもってイメージできたところと、そうでないところがありました。
 - ・ 本学でも学修支援をやっているがあまり活発ではなく、活発な大学と何が違うのか検証したいと思いました。
 - ・ 特に疑問はございません。
 - ・ 特にはありません
 - ・ 特にありません。
 - ・ 学習支援についての事例をもっと聞きたい
 - ・ 教員は、教育力、研究力だけではなく、多面的に評価されていますが、そもそも教え方の最適解を教わっていないとか、コンテンツ作りで精いっぱいと言われると不安になります。教員としての能力開発（FD）も教員の仕事だと思います。私は、事務職員ですが、SDにしっかり取り組み、その成果は工夫しながら部下育成に活用しています。能力開発の成果は、積み重ねの結果わかってくることで、即効性が見れるものではないと思います。教員として自信をもってほしいと思いました。
 - ・ 人的支援に関わる人材の確保はどのように？人材を育てるとしても、まず、人が集まらなければ（あつめなければ）と考えるのですが。
 - ・ 今後のラーニングコモンズの方向性
 - ・ 特にはありません
 - ・ とくにありません。
 - ・ コンテンツはデジタルで良い、と言い切られていたように思います。その通りかと思うのですが、高価かつ出版社が図書館用を準備していないケースが多いことが、現時点ではなかなか厄介です。「新規購入図書は基本的に電子版」という時代が来るのか、来るとしたらいつ頃になりそうか、何かお考えがあれば御教示いただきたいと思います。また千葉大学の附属図書館では、新規の図書購入についてどのような方針でしょうか？「図書館の命は図書」という面々が図書館の同僚にもいて、どうも方向性があいません。人文系等の研究には図書館資料の重要性は高いと思うのですが（それも国会図書館等の個人向け電子送信がはじまると、かなり変りそうですが）、学習に図書館の本がどれくらい必要なかは、疑問に思いはじめています。
 - ・ 特にはありません
 - ・ ジャックデリダの視点で遠隔授業を解釈する試みには驚愕しました。一方、無知蒙昧な私にはなんとなく、難解にも感じました。
3. **大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。**
- ・ ありません
 - ・ どういう方法であってもゆっくり話して相手に伝えることが重要であると感じました。特に難しいことを話す場合は何度も早口で話すよりはゆっくり話す方が伝わるように思います。
 - ・ 学修（学習）支援は、どの大学の教職員に話をうかがっても必要と考えていらっしゃるようですが、その強度や具体的なやり方はどうしたらいいのかアイデアや支援がなく、具体的に踏み出せない大学も多いです。広島修道大学や創価大学は態勢を整え、意欲的に取り組んでいるようです。
 - ・ コミュニケーション力が学習のみならず、生きていくうえで大切だと感じます。

- ・ チームティーチングが強調されていますが、それを職員が組織していける力が、今後重要になると思われます。
- ・ 理論上オンラインでできないことはないものの、現時点での技術的制約はもちろん、それ以上に学習する側、教育する側、支援する側ともまだまだ慣れが足りない、訓練がたりないと、自戒を込めて感じました。
- ・ 全学での継続的改善を見える化する必要性を感じます。
- ・ 図書館は、教育現場にいる先生と学生という両者の間で橋渡しの枠割も担っていると思います。そこには、学術資料があるわけですが、図書館がよいと考える教育・学修支援は、果たして教員が求めるもの・学生が求めるものと合致しているかということそうではないのが現実です。資質や能力としては、教員と連携し、学生に寄り添いながら教育・学修支援に取り組める人材だと考えています。
- ・ 大学に合った学修支援を届けることが必要。図書館員がすべてを行うのではなく、教員、ピアサポーター、部局など、さまざまな支援者と「つながる」ことが必要かと思いました。
- ・ 図書館の学習支援についても、以前からの”情報リテラシー教育”の型から変わっていかねばならないのだろうと思います。本学では、まだ十分ではないですが、オンライン授業による大学教育の変化を感知できる力が必要だと思いました。
- ・ 私の所属校は完全オンラインを前提に入学する学生しかおりませんので、ある意味では初めからオンライン耐性があるかもしれませんが、オンライン上の学生コミュニティサイトの提供や大学主催のイベント開催などを行っており、意識的に授業以外でも学生と教職員とが接続を持つことができる環境を構築するためにどうあるべきか、常に試行錯誤しております。
- ・ 学習サポートを充実させて2年が終わりましたが、確実に成果が出ています。
- ・ 教育・学修支援はコロナ前・コロナ後で変容したように感じます。教員はオンラインの一方方向の講義でも学生を引く付ける工夫をし、カット割りや効果音などに工夫をされている先生方もいらっしやると聞きます。学生さんがそのような「魅せる」講義に慣れてしまって、大教室や板書を退屈に感じるのではないかと、能動的に学修に取り組む資質や能力を学生さんに身に付けさせるには何が必要かなど考えている所です。
- ・ 学生による学習支援（対面相談・オンライン相談・フォームスによる相談受付など）
- ・ 所属している機関がどちらかという縦割り組織のため、学修支援という言葉で引かかる部署が複数出てくるのが現状です。そこで起こるのが仕事や役割分担の考え方のミスマッチです。千葉大学アカデミック・リンク・センターのような組織横断的な取り組みがスタンダードになっていることがうらやましく思います。
- ・ 大学図書館で業務委託が進んでいるのですが、職員の能力差が大きく、（※ここまでで記述終了）
- ・ コロナ禍の問題もあるが、学生間格差が広がりすぎ、教員個人の支援だけでは限界を感じている。
- ・ 学修についていけない学生（成績不振者）に対する大学としての制度が必要になってきていると感じます。本学ではアカデミックアドバイザー制度のもと、学部が定める基準を満たさない成績不振者に対し、教員が指導を行っていますが、思うような成果に繋がっていません。よりきめ細やかな対応が必要と思われませんが、これ以上の人的リソースが割けない状況です。
- ・ 特に私学は学生・生徒納付金が主たる収入源であり、我々職員はどの立ち位置にあっても経営者の視点で組織の発展に寄与し、学生・生徒に還元できるよう日々努力するという気概を持つことが重要だと改めて痛感しました。資質・能力は天性の才能ということもありますが、本人の努力で向上することもあるので、努力し続けることを大事にしていきたいと思っています。
- ・ 授業だけでなく、課外活動を介した、学生たちの学びと成長の場の大切さについて、改めて考えさせられました。
- ・ 教育・学修支援にもいろいろあるでしょうが、印象として、本日の御講演でもシンポジウムでも、図書館と

という言葉はほとんど出てきていませんし、「従来の図書館員が可能な教育・学習支援」は、もうほとんど不要かなと、ますます思いました。図書系職員が教育・学修支援するよりも、大学院生の TA 等を組織化し、専門的な知識をもった上で、教育・学修支援スキルを身につける体制を構築するほうが効率的なように思いました。とは言っても、それは直接的な支援の話で、間接的な支援の体制を構築・運用するという点で、事務系職員の広いビジョン、組織ミッションの理解、それを実際の支援サービスに落とし込むプランニング能力、財務・人事なども含めたマネージメント能力、リーガル、IGT などなど、様々な面で、より高いレベルへのスキルアップが求められているように感じました。

- ・ 考える学生を作るという理念をお持ちの学長のお話がありましたが本学は考えるというより「手を動かす」「実学教育」を重視しています。オンラインでの授業形態は限界があり、コロナ禍でも実験授業は対面で行っていました。一方図書館では非来館型のサービスを充実させる取組を行っており、今日のお話は大変ためになりました。
- ・ 全入時代になり、個別学習支援がこれまでよりも重要視されるようになってきました。本学でもアカデミック・リンクを見習い、4月から始まる学習支援センターを効果的に運営したいと思います。

4. オンラインシンポジウムを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・ 退屈でした
- ・ 一部の発言者の音声聞き取りにくいことがあった。
- ・ 特にございません。
- ・ テキストがチャット内からダウンロードではなく、事前に配布いただけると嬉しいです。
- ・ 特になし。
- ・ 特になし
- ・ 操作に不慣れということもあってか、講演開始後に PC 上で示された資料を開き、内容を見ながら映像と音声を追うという点が難しいが、オンラインセミナーなのでやむを得ない点と思う。
- ・ 発言者によって音量が上下することがありました。
- ・ 特にありません。以前は会場で参加させていただいたことがありますが、オンラインのおかげで非常に参加しやすくなりました。
- ・ 特にありません
- ・ 特にありませんが、やはり対面がより好ましいなという印象を持ちました。
- ・ なし
- ・ 特に不便さを感じることなく、改善してほしい点もありませんでした。
- ・ 特になし
- ・ スムーズな進行で特に不便はございませんでした。
- ・ 特にありません
- ・ とくにありません。
- ・ 一部、音声小さいと感じた。自身の PC 音声をマックスにして視聴した。
- ・ 大変よかったですと思います。

5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・ なし

- ・ 様々な視点から学習支援について学ぶことができ大変勉強になりました。今後もオンラインでこのようなシンポジウムを開催していただけるとありがたいです。
- ・ 開催の準備・案内等ありがとうございました。おかげさまで、オンラインの良い面を体験できました。
- ・ 看護学教育で、オンライン実習を余儀なくされ、今は、ハイブリッド型で実施しています。看護学の教育では、人と人との全人的な「関わり」(interaction)の知をどう学修できるようにするかということが課題なので、さまざまな取り組みの情報共有がなされていますが、たとえば、社会学におけるフィールドワークという接近法の学修や、心理学における「面接」「面談」などの学修をどうしているのかなどの事例がきけたらうれしかったです。
- ・ 今後も意欲的な企画を期待しています。
- ・ 特になし。
- ・ 貴重な機会を提供していただき、ありがとうございました。
- ・ 横田先生と國本先生の話し方が似ていて、絶妙なコンビネーションだった。
- ・ 大変勉強になりました。コロナで強制的にオンライン授業やオンライン学習相談を開始することになりましたが、さまざまな工夫でその利点を活用できたり難点を克服できたりすると思います。一方で、対面状況での授業や学習相談についても、再度考え直すことができました。今後どのような「考え方」「視点」で取り組むのか、そのヒントをいただきました。感謝申し上げます。
- ・ 充実した内容で、大変参考になりました。参考文献も確認したいと思います。
- ・ 貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 岩切先生の基調講演が、パルマコンや演劇性といった、普段考えたこともない切り口からオンライン授業を考えるもので、大変面白く拝聴しました。
- ・ 今年度も複数回セミナーに参加させていただきました。変化の激しい社会の中で大学はいかなる役割を果たすべきか、いずれの回も大変参考になることが多いテーマでした。これからの十年を築いていかれる皆様のご健勝をお祈り申し上げます。次年度以降のセミナー開催も楽しみにしております。
- ・ ICUの岩切先生のお話は大変興味深かったです。
- ・ 貴学の学生さんは幸せだなと感じました。自分が学生の頃の図書館は、単なる蔵書があるところでアカデミックにリンクできるセンターではありませんでした。日本中の大学図書館が貴学のグッドプラクティスを導入し、より多くの学生さんの学びの場がより良いものになると良いなと感じました。
- ・ 教育・学修支援の機能が散在していることについての学生の戸惑いのお話を伺い、どの分野においてもみられる本学の課題であると感じました。それぞれの組織が熱心に取り組んでいるにも関わらず、体系化や周知が十分ではなく、様々な支援について効果的な活用が促せないことについて、見直しを図っていきたいと感じました。
- ・ 本学でも学生による学習支援を行っているが、オンライン活動時の相談は少なく、やはり先輩が目に見える状況での対面相談のほうが断然多かった。図書館の利用率はまだまだ低く、図書館で行っている学習支援を全学の学生に活用してもらえよう各部署とも連携して活動していきたい
- ・ 今回も楽しく学ばせていただきました。運営に携わられたみなさま、お疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・ いわゆるラーニングコモンズではなく、教育・学習支援という視点から幅広く情報が提供されたり、検討された点がとても興味深かったです。ありがとうございました。
- ・ 設立10周年お祝い申し上げます。先進的な取り組みで多方面で成果を出されているとのことで、興味深く拝聴致しました。参加させていただきありがとうございました。

